

決議案を相つ、これを批判し解散を策し、組織的討議に着手し、徹底的の点、何等の組織も具体の討議を有して個々利己の闘争に耽りて置かれざるべし、

結 論

選挙斗争の結果は、前掲の如く然りしのみ、無産階級解放運動のメインカレントとして、全国で最大衆を規定し、大衆階級の要求なる要求を明らかにせしむ、此の惨敗の痛手を受けて、組織の程度の差を認め、因みに臨時組織を新設し、應に選挙斗争の不振がその差の所成とし、起つて来たり、これは一つの臨時組織すら醸成する形勢を多分に含み、この一、大衆階級の攻撃は、徹底的、世界階級の組織は不断に成長しつ、あつて、大衆の組織と階級の組織とは、全国最大衆の上をドス、く覆ひぬ、の状況不にあつて、水、の事態は一列もゆがむにすべき、はなり、

選挙斗争の最正なる批判の上に組織を更す一方、外に回つて衆衆を、日産階級を醸成しこれを通じて大衆を引寄せ、行く以外に道はなし、本階級委員会はこの選挙斗争の批判をあらわす、解散後の飛躍へ、となすものである！

精 令 一九三二年十一月



全口労働大衆党京都府支部聯合會
常任執行委員

常任執行委員之印

先づ新市町村の電燈電力値の大半を半減せしむ

各町、各村、各学区に、値下斗争同盟を組織せしむ

本五回部在執行委員、採取東京新聞、京都市電氣局、東洋電氣に対し、一般諸労働が激落せしむ

本日、資本の搾取と、国家資本の権威下に独占價格を維持して、暴落は、採取を続けたる、電氣局

本に対し、大衆斗争に依り、値下運動を起すべく、別紙斗争方針を頂及ぶ斗争委員を左の如く決定

しむ

電氣局の値下斗争を激進せしむ

投票委員 半谷三三

委員 渡辺六郎、渡辺武夫、田中義、吉田高助、神田五三、村田健久、花田茂七、宮本文

夫、渡辺武、三野武、池田龍一、水村龍一、佐々木三郎、辻井寛之助、堀山龍一

中川二助、一橋正一